

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>農業用井戸の設置への助成については、順調に推移していたが、近年では、活用件数が減少している。しかし、活用を希望する相談件数は一定数あることから、多くの需要はあるものと考えており、重要な取組と考える。</p> <p>また、機械設備への導入や施設への支援については、農業経営の安定化を図ることにより、担い手の育成につながることから、重要な取組と考える。</p>
見直し・改善内容	<p>農業用井戸の設置への助成に係る制度のさらなる周知を図るとともに、J Aわかやまとさらなる連携を行い、潜在的な需要の掘り起こしを行う。</p> <p>また、機械設備の導入や施設への支援に係る制度については、県と連携を図ることで、効果的な広報を行い、活用を促進するなど、担い手のさらなる農業経営の改善に努める。</p>